

大会宣言

私たちJR東労組大宮地本は、第16回定期大会をホテル聚楽において開催し、すべてのたたかいを「たしろかおるへ」をスローガンに、職場で発生する多くの問題を「たしろかおる」を応援する取り組みにつなげてたたく方針を満場一致で確認した。

たしろかおるは、当選から5年が経過し任期も残り1年となった。たしろかおる参議院議員は、職場で発生している様々な問題を、国会での議論として高め、私たちの視点で訴えてきた。これまで私たちは、自分にとってのたしろを確立し、紹介者10名の貫徹を目指し職場で奮闘してきた。役員間の相互指摘や、いつまでに誰が誰に議論するのかなど、具体的な実践を通じて組合員と向き合う教訓が語られた。しかし、国会では与党の圧倒的な議席のなか、安全保障関連法案や労働法改正が可決されようとしている。今までのたたかいが本気であったのかを考え、今の現実に否定感を持つのであれば、己を高め実践しなければならない。参院選後、憲法改正の議論が始まろうとしている。今こそリーダーが組合員と本気で向き合い、大宮地本一人10名の紹介者貫徹にむけて私たちの明るい未来、働きやすい職場を残すために組織の総団結でたしろかおる応援の取り組みを全力で作りだそう！

基地再編成のたたかいでは、さいたま運転区・さいたま車掌区・さいたま車両センターと3職場が新たに誕生した。私たちのたたかいによって「確認メモ」や「議論経過メモ」を通じて職場から1年間の検証期間を勝ち取ってきた。これからは、運用上の問題点や旅客流動など組合員と共に検証運動を創りだしていかなければならない。しかし、労使で検証運動を行うことを確認しながら、協約を逸脱し規制によって職場運動を排除させようとしている。協約を守らせるたたかいを「あっせん申請」を活用しながら職場からたたかいを作りだしていく。私たちは、安全が担保されない施策は認めるわけにはいかない。職場からのたたかいが絶対的に必要だ。しかし、今の鉄道の安全は危機的状況だ。現場の声に耳を傾けず、過度な外注化や効率化が背景にあるといっても過言ではない。職場では慢性的に要員がいない中で、業務委託駅の遠隔操作や工務職場の外注化、車掌職場では年休問題、相次ぐ本人希望を無視した転勤によって技術継承が蔑ろにされ、業務量が増加し、安全が担保されていない問題が発言された。私たちは職場で原因究明委員会や安全議論を通じて、命を価値基軸に組合員と共に安全の再確立を作りだしていく。

15春闘では、地本春闘集会と本部激励行動以降妥結を待つだけという「待ちのたたかい」から、「攻めのたたかい」へと転換してきた。そこにはスト権議論を入れながら組合員に真剣に向き合い、運動を全員で作り出す教訓が発言された。所定昇給額をベア算出基礎とする会社の姿勢に対し、過度な競争が職場に持ち込まれ、安全で働きやすい職場が失われることを組合員と議論を作りだしてきた。私たちの賃金について考え、意見を情報化し多くの組合員が格差賃金には反対との意見を集約した。しかし、会社の格差ベアを崩すことはできていない。鉄道業に過度な競争はいらない。年功序列賃金や終身雇用の維持を前提に本来の「ベア」のあり方を求め、労働三権を対置して16春闘を全組合員でたたかおう。

現役組合員の職場での苦闘を無視した一部OBの組織破壊を許すことはできない。「読む」や「浅野講演」・「水澤メール」は同質である。事実を歪曲し現役の組合員を組織化する行為を私たちは許すことなくたたかうことを明らかにする。

JR東労組大宮地本は、すべてのたたかいを「たしろかおる」へと決起し、美世志会と共にえん罪のない社会、平和な社会を作り出すためにも職場から組合員と共に本気の議論で全員参加の運動を作りだしていく。以上宣言する。

2015年7月6日
東日本旅客鉄道労働組合
大宮地方本部
第16回定期大会